

西日本豪雨の被災地支援 岡山に医療チーム派遣

松波総合病院 避難所で活動へ

西日本豪雨の被災地を支援するため、松波総合病院(羽島郡笠松町田代)は3連休初日の14日、医師らで構成する全日本病院医療支援班(A.M.A.T.)を被災地の岡山県へ派遣した。15日から2日間、主に避難所での災害医療活動に当たる。全日本病院協会災害対策本部の要請で、救急科部長の八十川雄図医師(44)と杉原智子看護師長(46)、西川哲史調整員(40)の3人を派

遣。災害発生から時間がたち、避難所生活で体力の低下などが懸念される被災者の診察や治療、病院への搬送などを担う。出発式が同病院で行われ、松波英寿理事長らスタッフ約40人が、途中合流する八十川医師を除く2人を見送った。杉原看護師長は「暑さによる熱中症や感染症が心配。内因性疾患を洗い出して速やかに医療を行いたい」、西川調整員は「隊

の安全を守るよう頑張りたい」と意気込んだ。同病院は、東日本大震災や熊本地震の際にも医療チームを派遣している。

(亀山大樹)



出発式で決意を語る杉原智子看護師長(左から2人目)と西川哲史調整員(左)＝14日午前、羽島郡笠松町田代、松波総合病院